

子育て支援部

- ①わはは・ひろば高松
- ②わはは・ひろば坂出
- ③わはは・ひろば香西
- ④高松コーディネーター
- ⑤まるっ子ひろば
- ⑥まるっ子コーディネーター
- ⑦まるっ子一時預かり
- ⑧まるっ子事務所

①令和6年度事業計画／子育て支援部／わはは・ひろば高松

事業費	スタッフ数	昨年度実績	今年度目標値
(地域子育て支援拠点事業費) 8,398,000 円	正1 P3	① 5510 人 ②404 組 ③310 組 ④	① 5500 人 ②410 組 ③300 組 ④20 組

①総利用者数②登録組数③新規登録組数④初産婦登録

【今年度の目標】 多様な人との出会いや交流を生み出すひろばづくり

	今期の重点行動予定
1. 地域とのつながりづくり (重層的支援体制整備事業)	1. 地域交流イベント(年3回)20周年・ハロウィン・クリスマス 学生・ボランティアと一緒に開催し多世代と親子が関われる機会を増やす。 2. ふれあい授業へ参加し、ひろばを利用する親子と学校に出向く(3校) 3. 学生ボランティアの募集 20名 4. 職場体験の受け入れ 学生主体のイベントの実施
2. ひろばの早期利用の促進	1. 妊娠期の方向け講座(年6回)プレママの会と合流することで先輩ママに産後の生活や妊娠中の不安などを話し交流する機会を持つ。 2. 産休・育休の方向けの講座(年2回)育休の不安や準備しておくいいことを一緒に考える機会を持つ。
3. イベントの充実	1. 赤ちゃん向けのイベントの実施(足形・寝相アート・年12回) 毎月SNSで告知をする。 2. 香西ひろばと協働で、讃岐おもちゃ美術館へ訪問し、ひろばをまだ知らない人と繋がる機会とする。(年3回) 3. 子育て座談会・個別相談の日を年6回設ける。 子育てに限らず相談できる機会をもち、ひろば・コーディネーターで家族を見守っていけるようにする。
4. スタッフのチームワークづくり	1. 香西・高松・CNでのエリアミーティングの実施(月1回) 地域交流など進捗状況を共有し、全員で高松市内の子育て家庭を支えていけるよう取り組む。 2. 外部研修へ積極的に参加しスキルアップにつなげる。

【特筆すべき事項等】

- 1-1 地域の学生と子育て家庭の交流する機会を多く持ち、実際に子どもに触れ、子育てに関心がもてるよう取り組む。また、参加した学生がボランティアに参加し、継続的に親子と関われる機会を作る。
- 2-1 1年間を通して、妊婦さんの利用を増やすため講座を実施する。先輩パパ・ママと交流し、赤ちゃんにふれあう機会を増やすことで産後の生活のイメージがもてるようにする。
- 3-1 昨年度同様、ねんねちゃんの登録を増やし、外出を控える時期にひろば交流することでリフレッシュに繋がり、先輩ママとして妊婦さんとかかわってもらえる機会を増やす。
- 4-1 高松エリアで横串を通し、日常的に高松・香西のスタッフで利用者と関わる機会を増やす。
また、よりたくさんの子育て家庭とつながる機会を持つために、積極的に地域に出向く。
そのために月に一度のエリアミーティング・サブリーダーミーティングを実施し情報共有の場とする。

②令和6年度事業計画／子育て支援部／わはは・ひろば坂出

事業費	スタッフ数	昨年度実績	今年度目標値
(地域子育て支援拠点事業費)	正1	①4,957人	①4,500人
8,639,000円	P3	②167組	②170組
(P補助費)150,000円		③104組	③110組

①総利用者数②登録組数③新規組数

【今年度の目標】 親と子の居場所となる

	今期の重点行動予定
1.赤ちゃん期からの利用の促進	1. 健診訪問(年12回)で口頭で赤ちゃんからの利用促進を伝える 2. SNS(0歳からの利用促進をテーマにした投稿を月2回程度)にて0歳児からの利用を勧める。 3. 赤ちゃん家庭が交流できるイベントを月2回開催
2.親子が安心できる場づくり	1. おしゃべりタイムを月1回開催。 2. 月1回3S活動を実施。利用者目線でひろばの環境を改善する
3.利用者の力を活かしたひろばづくり (ボランティア活動)	1. 常時ボランティアを募集。ボランティアメール配信実施。(年6回) 2. ひろば内フリマをボランティアと連携して開催(年2回)
4.スタッフの連携とスキルアップ	1. 毎日の振り返りでひろばや利用者の様子を共有。 2. 毎月ひろば内研修を実施。全スタッフ年1回以上外部研修を受講。
5.地域との継続的なつながりづくり	1. 地域のイベントに合わせて開館。(土曜ひろば10回、祭り1回) 2. 地域の支援者や関係機関と連携した講座、イベントを実施する。 (月1回以上)

【特筆すべき事項等】

- 1-1 市主催の健診訪問にて直接親子にひろばの利用の説明を行い、利用のきっかけとなるようにする。
- 1-2 ひろばの広報にHPやSNSを活用する。写真や動画にて赤ちゃんがひろばで過ごす様子が分かり、保護者が安心してひろばを利用できるようにする。
- 1-3 赤ちゃん家庭が交流できるイベントを月2回開催。利用のきっかけや継続利用の促進となるよう内容を工夫する。
(寝続アート、成長記録カード作り、足型アート)
- 2-1 おしゃべりタイムは、利用者が気軽に交流できる場となるよう企画する。情報交換や楽しみだけでなく、困りごとや悩みを話せる場にもなれるようスタッフが予防型プログラムを活用しながら場の雰囲気や利用者の様子に配慮しながら進めていく。
- 2-2 月1回3S活動を実施。利用者が居心地よい環境づくりをテーマにひろばの環境を整えていく。
- 3-1 ひろばボランティアの活動内容を周知し、常時募集する。活動に合わせてメール配信を行い、家庭の状況に合わせて参加できるようにしていく。
- 3-2 利用者ボランティアと連携し③ながら準備を進め、リサイクルフリマを年2回開催する。収益の使い方については利用者の意見を取り入れた内容となるようアンケートなどを活用する。
- 4-1 業務を効率的に行い、ひろばの振り返りの時間を確保する。スタッフ間でひろばの様子を共有することで親子の課題や変化に気づき、切れ目なく対応できるようにする。
- 5-1 地域のイベントに合わせて開館することで広く子育て家庭にひろばを周知し、利用してもらうきっかけとする。また、ひろばの利用者が地域のイベントに参加し、地域を知る機会となるよう情報提供をしていく。
- 5-2 利用者が地域の支援者や関係機関と出会い、つながるきっかけとなるような講座を企画する

③令和6年度事業計画／子育て支援部／わはは・ひろば香西

事業費	スタッフ数	昨年度実績	今年度目標値
(地域子育て支援拠点事業費)	正1	① 4,813人	① 4,500人
10,192,000円	P4	② 231組	② 240組
		③ 112組	③ 140組

①利用者数②利用組数③新規利用組数

【今年度の目標】 様々な人とつながるひろば

	今期の重点行動予定
1. 妊娠期、低月齢からの利用促進	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期用のチラシを作成。 2. 産婦人科の母親学級へ訪問する(12回) 3. 妊婦さん向けのイベントの開催(6回) 4. 0歳児の継続利用を増やす(40%)
2. 地域とのつながりを広げる (重層的支援体制整備事業)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育てサークルなど地域への訪問(20回) 2. 高松ひろばと共同で訪問先を増やす(2か所) 3. 多世代交流イベントの開催(2回) 4. 学生ボランティアの募集を行う(5か所)
3. イベントの充実	<ol style="list-style-type: none"> 1. アンケートを実施し子育て家庭のニーズを把握する(2回) 2. 大人のリフレッシュイベントの開催(12回) 3. 新規枠を作成し、4か月児相談の訪問時に案内する(12回)
4. 情報発信	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他部門のイベントをSNSにて広報する(12回)
5. スタッフの連携	<ol style="list-style-type: none"> 1. 週1回のスタッフミーティングを行う 2. ホワイトボードを活用し業務の進捗の共有 3. 高松エリアミーティングを行う(12回)

【特筆すべき事項等】

- 1-1 妊婦向けイベントの1年間の予定をチラシにして母子手帳配布時や産婦人科にて配布。
- 1-3 妊婦さんに興味を持ってもらえるイベントを開催。高松ひろばと合同で行うことでイベント内容や広報など広く行う。また、ネット予約を取り入れることで妊婦さんの利用促進を行う。
- 1-4 マンスリーフォト週間を開催し、低月齢の親子からの継続利用を増やし、利用者数の増加を目指す。
(継続利用者・・・年3回以上利用がある方)
- 2-1 昨年度から継続して地域の子育てサークルへの訪問を定期的に行い、その他地域の子育て支援活動(子ども食堂など)とのつながりづくりを行う。
- 2-4 学生ボランティア募集のチラシやポスターを作成し、学校等へ配布する。
- 3-2 昨年度末に実施したアンケートで上位になったリフレッシュイベントを今年度は毎月開催する。
また、利用者ボランティアの活動の場としても利用し、利用者同士がつながれる機会にする。
- 3-3 イベントをきっかけとし新規利用を増やすため予約枠に新規枠を作成する。毎月月末に訪問している4か月児相談でも人気イベントを案内し、事前予約受付する。
- 4-1 他部門のイベントの情報発信があった際にInstagramのシェア機能を使って広報を行うとともに、インフォメーションにもお知らせを行う。
- 5-1 毎週火曜日の朝礼の時間を利用しスタッフミーティングを行う。ミーティングファイルで共有する。
- 5-3 毎月のスタッフ勉強会の時間を利用し高松エリアでミーティングの時間をつくる。高松エリアとして活動することで活動の幅を広げ、スタッフ同士が刺激を受け合い高め合える関係を築く。

④令和6年度事業計画／子育て支援部／たかまつ地域子育て支援コーディネーター

事業費	スタッフ数	昨年度実績	今年度目標値
8,781,000 円	正1 P2	① 継続 33 件 情報提供 464 件	①継続 36 件 情報提供 500 件

①相談件数(継続・情報提供)

【今年度の目標】

一人ひとりが孤立せず安心して子育てできるように予防的視点を持ち、身近な相談相手になる

	今期の重点行動予定
1 情報提供	1, 妊娠中の方、子育て中の保護者に向け、新しい子育て情報やイベント告知、報告を SNS・HP 掲載。 2, 幼稚園座談会・保育所座談会を開催し、座談会を通して情報提供を行う。 ⇒定員に対するイベント予約率 85% 3, CN のひろば滞在時間を増やす。
2 相談	1, 定期訪問先と連携を取り CN につなげてもらう仕組みを作る。出張相談件数、前年度 200 件より増加。 2, 相談の振り返りを行い、必要な地域資源への理解を深める。
3 広報	1, ひろば掲示板にイベント告知や月1回テーマを決めて記事を掲載。⇒CN業務の認知度 80% 2, 通信や HP、SNS など定期的に CN 紹介、ひろばイベント(転勤族の会、赤ちゃんひろば、ねんねちゃんの会、デビューデー)で顔見せ。CN ハードルを下げる。 ⇒CN 相談したことある 70%/新規利用者がCNを知っていると答える人 70%
4 他機関連携	1, 他機関と顔の見える関係づくりのため、施設訪問を行いお互いの役割を知る。 2, お仕事座談会など他機関との協働イベントを開催。CN が様々な機関と繋がっていることを利用者に知ってもらう。⇒他機関連携ケース(延べ相談総合件数のうち 10%)
5 資源開発	1, 夫婦のカタチ、妊娠期・メンタルヘルスのイベントを定期開催することで早期からの継続的な来館や相談につなげる⇒設定予約数に対し 60%の参加数に。
6 チームワークを高める	1, 月 2 回のミーティングでそれぞれの業務内容の確認や困りごとを確認する。 2, 他部署とお互いにイベント広報や情報提供など、情報誌・SNS を活用する。

【特筆事項】

1-1 情報不足からくる子育て不安を解消するため、新しい子育て情報や制度について必要な時期に情報発信するよう努める。

4-1 予防的視点を持ち家族の困りごとを早期に把握し、地域の関係機関と連携し支援ができるよう取り組む。

まるごと福祉の定例会などに積極的に参加し、顔の見える関係づくりを行う。

5-1 産後ホルモンのバランスが崩れることで、メンタルヘルスの不調を抱えるケースがあることを妊娠期に知る機会を持つ。ひろばで先輩ママやパパと交流し、子育てが孤立してしまうことがないように、プレママ・プレパパ講座を実施する。

6-1 コーディネーター一人一人の個性を生かし、たくさんの人に安心して相談してもらえるよう、スキルアップに努める。

⑤令和6年度事業計画／子育て支援部／まるっ子ひろば

事業費	スタッフ数	昨年度実績	今年度目標値
(地域子育て支援拠点事業費) 8,575,000 円	正1 P3	① 8,380 人	① 8,000 人

①総利用者数②登録組数③新規組数

【今年度の目標】 妊娠期からの切れ目ない利用促進

	今期の重点行動予定
① 赤ちゃん期の利用の促進	1.坂出市内出生数に対して、70%(170人)の0歳児登録。 2.パパママ教室参加からひろば利用に70%つなげる。
② 情報発信	1.インスタグラムを毎日、まるっ子ホームページを週2回投稿する 2.まるっ子ひろばに来たことがない新規の方に向けた記事を月1回投稿する。 3.健診訪問(年4回)し、赤ちゃんからの利用促進を伝える。
③ 利用のつながるイベント	1.専門家からの情報提供や座談会、先輩ママとの交流会、母のお楽しみイベントなど、テーマを決めて赤ちゃんひろばを毎月行う。 2.ひろば利用のきっかけとなるよう、ひろばデビューデーを毎月行う。
④ サポーターズの活躍の場を作る	1.まるっ子サポーターズにスタッフのサポートとしてイベント参加する機会を設定する。 2.サポーターズ会議を行う。(年1回)
⑤ スタッフ連携	1.業務の進捗状況を確認し共有するため、週1回スタッフミーティングを実施する。 2.子どもの発達や子育て家庭への支援に関する研修を受ける。(年5回以上)

【事業チームとしての行動計画】

①-1 まずはまるっ子ひろばに来てもらうことで、多機能型の強みである連携機関・一時預かり・コーディネーター・地域などとつながることが出来る。ひろばを卒業したあとも、地域で子育てしていくための橋渡しとなるよう、多くの方と関わる機会を設ける。

①-2 まろっ子ひろばでパパママ教室を行うことで、出産後の来館のハードルが下がり、利用につながるを考える。

②-3 コーディネーターと連携し、3.4か月健診、1歳6か月健診、パパママ教室、子育てサークル、図書館カンガルータイムでチラシを配布し、ひろばについて知ってもらう機会を増やす。

③-1 利用者との会話や相談の中で困りごとを参考に、専門家の座談会のテーマを決め開催する。また、夢中になって制作したり、おしゃべりしたり、リフレッシュしたりできるテーマを設けることで、まずは母が楽しめる時間となり、継続した利用につなげる。

④-1 ひろばのお手伝いをボランティアで行うまるっ子サポーターズが、活動を通して役立ち感を得られる機会を設定する。イベントに参加し意図的に利用者に関わる機会を作ることで、接点が増え、利用者にとって頼れる存在が増えることを期待する。

④-2 まろっ子サポーターズの活動についてだけでなく、ひろばをより良くするために何が出来るかをスタッフと共に考えることで、まるっ子ひろばの活動に携わる一員であり、誰かの役立っている、家族以外の人に認められていると感じてもらいたい。

⑤-2 研修後は一週間以内に研修報告書を作成。朝の時間を活用し、学んだことや感じたことをスタッフに報告することで、研修に参加できなかったスタッフも学びの機会とする。

⑥令和6年度事業計画／子育て支援部／さかいで地域子育て支援コーディネーター

事業費	スタッフ数	昨年度実績	今年度目標値
(利用者支援事業事業費) 7,782,000 円	正 1 P1 委託 1	①908 人 継続: 745 人 情報提供 163 人 ②70%	②100 人 ※1
【新規】(伴走型相談事業) 電話 1 件 250 円・面談 2500 円			①40 人 ※2

※1②妊娠中の方、及びその家族のまろっ子ひろば利用延べ人数 ※2①電話対象者の 1/3 の面談実施

【今年度の目標】 妊娠期からの早期支援

	今期の重点行動予定
⑥ 妊娠期からの情報提供	1. 今年度よりまろっ子ひろばにて実施するパパママ教室にてまろっ子ひろばを中心に子育て情報提供を行う。(6回/年) 2. 伴走型相談事業の面談時に使用する冊子を作成(5月完成)
⑦ 身近な相談相手	1. ひろばと共同イベントを月1回以上実施。 2. 週に10時間以上ひろば相談時間を設ける。
⑧ 伴走型相談支事業の実施	1. 電話連絡 2. 希望者面談 3. ケース記録・報告書 4. 実施状況の報告(1回/月)
⑨ 他機関連携	1. シングル・離婚を考えている方の為の座談会に坂出市こども課職員による制度・支援の説明会実施(2回/年) 2. パパママ教室・伴走型面談におけるケースの情報共有
⑩ スタッフ連携	1. 朝礼時の報告内容の見直しを行い、講座の目的などスタッフ全員で共有しすすめる。 2. 振り返り、けんこう課連絡会報告を行う。

【事業チームとしての行動計画】

①③と新規事業が始まり妊娠期からの支援がより身近となった。妊娠中の方がひろばに来ることで出産後の早期利用となるように、拠点事業と連携し講座、イベント相談にて継続利用につなげ伴走型支援を行う。

①-2の面談時に用いる冊子の作成により、相談者が今気づいていない課題、今感じている課題を漏らさず整理し、早期支援につなげられるようにする。

②・④-2 ひろば利用の期間の短縮、子どもの年齢がより低月齢化していること、コロナが五類になり子育て中の過ごし方、中でも育休中の方の過ごし方が変化している。

限られた育休中の時間を楽しもうと一日で拠点、子育てイベントを数か所利用する方も少なくない。その中で育てにくさを感じ家から出られない孤立した子育てと両極端な現象が起こっていると考えられる。

そのことから生活と課題に応じたニーズをキャッチアップし早期支援が求められる。あわせて、成長の過程で生じる不安や課題を感じた際に相談先として思い出してもらえ場所となるように、日々の信頼関係の構築、成長を見通した講座、イベント、相談会を継続し実施する。

⑤-2 多機能型施設として一時預かり、相談、ひろば、日祝利用による仕事復帰した後の継続した支援を各事業と連携し行う。

⑦令和6年度事業計画／子育て支援部／まるっ子ひろば／一時預かり事業

事業費	スタッフ数	昨年度実績	今年度目標値
(地域子育て支援拠点事業費)	正1	① 62人	① 50人
3,107,000円	P1	② 522人	② 450人

①新規数②預かり枠数

【今年度の目標】 子どもの成長を感じられる保育を行う

	今期の重点行動予定
⑪ 利用人数	1.新規登録者を増やすため、ひろばで一時預かり登録会を行う。(年4回) 2.ホームページを月1回更新する。
⑫ 保育内容	1.子どもの成長を感じられる日誌・連絡票を作成する。(アンケート:子どもの成長を感じることができた80%以上) 2.発達障がいや保護者対応についての研修を受ける。(年4回) 3.保育のセルフチェックを活用し、日々の保育確認を定期的に行う。(月1回)
⑬ 保護者対応	1.連絡カードを利用しながら、送迎時に子ども・家庭での様子・気になる点を丁寧に聴き取りし保護者と共有する。
⑭ 他機関連携	1.一時預かりミーティングを週1回実施。 2.朝礼の時間を活用し、他部署スタッフとの情報共有を行う。

【事業チームとしての行動計画】

- ①-1 ひろばで保育士が直接話をする事で、不安なことや心配なことを質問できるため登録につながると思う。また、普段からひろばで保育を行うことで、保育の様子や保育士のことを知ってもらい安心につながる。
- ①-2 一時預かりの基本情報や預かりの様子、預かり利用者の声などを投稿することで、一時預かりについてまずは知ってもらおう。知ってもらうことで、少しでも利用へのハードルを下げ、今は利用しなくてもいざ必要な時に思い出したり、知り合いに伝えたりするための手立てとする。
- ②-1 子どもの成長や発達に応じた体験の場を増やし、様々な人と関わる可以增加する機会を増やす。
- ②-2 子どもや保護者を理解し、個々に対応することが安心につながると思う、学びの時間を確保しスタッフのスキルアップを図る。
- ③-1 送迎時の保護者対応を密にするために、スタッフと連携し丁寧に聴き取り・共有する時間を確保する。
- ④-1 ミーティングの議事録をとり、ラインワークスのフォルダに残すことで、他部署スタッフとも内容を共有する。
- ④-2 他部署と進捗状況の共有を密にし、各部署同士で相互サポートができるようにする。また、コーディネーターとケースの共有を行い、必要に応じて専門機関につなげる。

⑧令和6年度 事業計画 子育て支援部（まるっ子事務局）

事業費	スタッフ数	昨年度実績	今年度目標値
(センター管理事業費)6,236,000円 300,000円 フェスティバル①②	正 1	①15,092人 ② 647組 ③ 318組 ④ 2,214人	①15,000人 ② 600組 ③ 300組 ④ 2,000人

①総利用者数 ②登録組数 ③新規組数 ④日祝利用者数

目標【安定した館の運営と幅広い層(妊娠期～学童期)の利用者増加を目指す】

今期の重点行動予定	
① 施設管理	1.備品、消耗品の在庫管理の消費ペースを把握し、計画的に購入する。 2.毎日の館内清掃、敷地及び近隣との隣接箇所の清掃・美化、閉館後のおもちゃの消毒、清拭などの衛生管理を行う。 3.窓、エアコンフィルターなど館内大掃除を年2回行う。
② 職場環境を整える	1.毎日の朝礼、月2回のスタッフミーティング、LINE WORKSを活かして全スタッフが館全体の業務やスケジュールを共有する。 2.3Sについて年間計画を立案し、毎月スタッフ間で共有・実行し、報告を行う。
③ 広報の充実による利用者増	1.HP・SNSを強化し、館の情報を月に2回掲載する。 2.引き続き毎月地域の回覧板を発行する(発行部数182部/月)。
④ 自主事業	1.リサイクルデー年2回開催。学童期の保護者のニーズを満たすため子ども服のサイズを140cmまでに拡充。 2.妊娠期対象のフェスティバル年1回、子育て世帯対象のフェスティバル年1回開催。 3.ライフジャケット無料貸し出し。年4回(4、7、9、12月)HP・SNS等にて広報活動を行う。 4.学童期向け図書貸出「まるっ子文庫ジュニア」目標利用者数120人。

【事業チームとしての行動計画】

- ①-1 事務消耗品およびパンフレット・フライヤーの在庫管理については、残が一定数になると購入・発注するなどのルールを規定する。
- ①-2 開設9年目となるため、衛生管理だけでなく破損による危険箇所の有無の確認など、老朽化を考慮した安全管理を行う。
- ②-2 3Sについて、イベントや環境設定に即した年間計画を立案、LINE WORKSにて毎月の予定を全スタッフに共有する。月間または週間の予定において3Sの時間を組み込むなど計画に沿って実行できるようにする。
- ③-1 イベントや季節に即した掲載内容計画を立案、実行する。既に利用している層、利用したことがない層の両者へアピールする内容を計画的に掲載する。また、突発的な状況(警報発令時の休館、イベント時間の変更等)に対しても迅速に発信する。
- ③-2 月のイベント情報やお知らせ事項などを掲載。まるっ子ひろばの利用対象以外の世代にもアプローチする内容を掲載し、施設の周知を図る。
- ④-3 ライフジャケット無料貸し出しについては、HP・SNSだけでなく回覧板、館内掲示物などで広報、また、新規登録時の説明書類に表記し、認知度を上げる。
- ④-4 まろっ子ひろばが学童期の子ども・保護者の交流の端緒となることを目指す。声かけ等により既存の利用者の就学後の継続的利用を促すとともに、SNSにより新規利用者増を図る。また聞き取りやアンケートにより利用者のニーズを調査し内容を充実させる。

事業推進部

令和6年度受託事業(計画)

- ⑨高松市 子育て支援総合情報発信事業(らっこサイト)
- ⑩高松市 ひとり親家庭等子育て支援総合情報発信事業(ひとり親冊子・サイト)
- ⑪香川県 地域子育て支援人材養成事業(子育て支援員・放課後)
- ⑫香川県 ライフデザイン事業(高校生ライフデザイン)
- ⑬高松市 乳幼児とのふれあい事業(ふれあい)
- ⑭香川県 女性リーダー養成事業(女性リーダー)
- ⑮高松市 放課後児童支援員認定資格研修業務(高松放課後)
- ⑯香川県 女性が輝く職場づくり事業(メンター)
- ⑰香川県 縁結び・子育て美容-eki(美容-eki)
- ⑱香川県 男性の家事・育児推進事業(男性家事育児)
- ⑲香川県 かがわ子育てステーションパワーアップ事業(ステーション) **新規**

自主事業計画

- ⑳子育て情報誌『おやこ DE わはは』 特別号
- ㉑わははファミリーフェスティバル
- ㉒子育てハンドブック「たかまつ らっこ」協働発行事業(らっこ冊子)

⑨高松市 子育て支援総合情報発信事業(らっこサイト)

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
1,113,200 円	-	-	-
今期の重点行動予定			
①サイト情報更新	<ul style="list-style-type: none"> ・「たかまつらっこ」冊子の改定内容を、サイトに反映 ・必要に応じて「らっこネットらのお知らせ」を更新 		
②運営・保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ管理を含む、サイト運営全般 ・SSL 認証への対応を実施 		

【事業チームとしての行動計画】

- ・サーバーの安全性や信頼性を高めるための、SSL証明書の取得に対応する

⑩高松市 ひとり親家庭等子育て支援総合情報発信事業(ひとり親冊子・サイト)

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
1,657,700 円	-	-	-
今期の重点行動予定			
①サイト情報更新	<ul style="list-style-type: none"> ・「たかまつらっこ」冊子の改定内容を、サイトに反映 ・必要に応じて「らっこネットらのお知らせ」を更新 		
② サイトの情報更新・運営・保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ・「たかまつひとり親家庭サポートブック」の改訂内容を、サイトに反映 ・メール相談への回答依頼、返信業務 ・セキュリティ管理を含む、サイト運営全般 		
③ 冊子改訂増刷	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭向け情報誌「たかまつひとり親家庭サポートブック」の情報更新確認及び冊子への反映、増刷業務 (A5 版 40 ページ 3,000 部発行)		

【事業チームとしての行動計画】

- ・サーバーの安全性や信頼性を高めるための、SSL証明書の取得に対応する
- ・令和6年度たかまつひとり親家庭サポートブック 令和6年8月1日 3,000部発行

⑪香川県 地域子育て支援人材養成事業(子育て支援員・放課後)

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
8,738,000 円	-	-	-
今期の重点行動予定			
①子育て支援員研修	<ul style="list-style-type: none"> ・4コース8事業の研修実施運営 ・コース内容説明動画制作 ・広報受付業務 ・受講者への個別相談対応 ・フォローアップ研修の実施 		
②放課後児童支援員認定資格研修	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者受付対応(受講資格の確認) ・中讃会場、高松会場 2会場での実施 		

【事業チームとしての行動計画】

- ・より分かりやすく研修内容を伝えるために、リーフレットを改訂

⑫香川県 ライフデザイン事業(高校生ライフデザイン)

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
8,738,000 円	-	-	-
今期の重点行動予定			
①ライフデザイン講座実施	<ul style="list-style-type: none"> ・1回 45分～100分で40人程度の人数を対象にした講座を実施。 ・合計800名程度の参加者を対象(県の方で希望調査・とりまとめ) ・キャリアコンサルタント保持者1名+1～2名の子育て支援スタッフで実施 ・高校側の希望に応じて、助産師と協働での事業実施 ・アンケートを実施し、結果については「colorful」に掲載 		

【事業チームとしての行動計画】

・1時間の講義希望の学校に対して、助産師からの主に妊孕力に関する説明動画を制作の上、活用

⑬高松市 乳幼児とのふれあい事業(ふれあい)

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
400,000 円	-	-	-
今期の重点行動予定			
①ふれあい体験授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の親子と中学校を訪問し、子育ての現状や親の思いについて話す機会を持つとともに、中学生に赤ちゃんを抱っこする体験を提供 ・継続的なつながりづくりや、さらなる経験のために、子育てひろばでのボランティアの機会の提供 		

【事業チームとしての行動計画】

・勝賀中学校 7クラス、下笠居中学校 1クラス、高松附属中学校 3クラスで実施

・ひろばスタッフ、事業推進部スタッフと協働で、事前授業～ふれあい体験～ボランティアの受け入れを実施

⑭香川県 女性リーダー養成事業(女性リーダー)

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
3,600,000 円	-	-	-
今期の重点行動予定			
①研修実施	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動や組織・グループのリーダーになった、もしくはこれからリーダーを目指す女性等を対象に、全6回の研修を実施。 ・研修時の動画を撮影し、振り返りや欠席者フォローのため配信 		
②女性ネットワーク「おいり」の意見交換会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者のネットワークの活性化の契機となる取り組みとして、意見交換会を企画・運営。 		

【事業チームとしての行動計画】

・過去の参加者、メンター養成研修の参加者を含め、ネットワークへの参加を促す

⑮高松市 放課後児童支援員認定資格研修業務(高松放課後)

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
1,920,000 円	-	-	-
今期の重点行動予定			
② 企画立案・進行・運営管理	・高松市の放課後児童支援員認定資格研修の実施		

【事業チームとしての行動計画】

⑯香川県 女性が輝く職場づくり事業(メンター)

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
2,356,000 円	-	-	-
今期の重点行動予定			
①メンター研修	・導入研修(企業経営者及び人事労務担当者並びにメンター候補者)、基礎研修(メンター候補者)、フォローアップ研修(メンター候補者)2 回の実施 ・研修の期間中の伴走支援		
②女性ネットワーク「おいり」の意見交換会の実施	・参加者のネットワークの活性化の契機となる取り組みとして、意見交換会を企画・運営。		

【事業チームとしての行動計画】

- ・参加企業 20 社のうち、10 社以上新規企業の参加を確保
- ・全体の事業を通して、お付き合いのある企業へも都度案内を進める

⑰香川県 縁結び・子育て美容-eki(美容-eki)

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
977,000 円	-	-	-
今期の重点行動予定			
①「美容-eki」フォローアップ資料の発行	・美容-eki 新聞として年 3 回発行 1 回目はリーフレット形式で制作し、登録店舗に発送 500 部 2 回目、3 回目は A4 両面 ホームページに掲載とともにデータ送付 CANVA を使って、内部での制作を目指す		
②希望がある際の認定講習会の実施	・わははネット全事業において関わる企業に向けて、常に情報発信をしながら、希望を募る。		
③アンケート調査	・既存の認定店舗の顧客に対してアンケートの実施→インスタグラム活用 ・既存の認定店舗 60 店舗に対してヒアリング又はアンケート →香川県美容業生活衛生同業組合 新春のつどいで直接アンケート実施		
④店舗への働きかけ	・メールマガジンを毎月発行		
⑤WEB サイトの管理	・登録店舗情報の変更 ・特色ある取り組み実施店舗を 6 回以上 HP で紹介		

【事業チームとしての行動計画】

- ・SNS の活用と、事業の紹介の機会を、わははネット全体の事業の中で横ぐしを通して実施。

⑩香川県 男性の家事・育児推進事業(男性家事育児)

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
2,900,000 円	-	-	-
今期の重点行動予定			
①家事・育児実践追うk座の実施	・県内各地(西讃・中讃・東讃・島しょ部)でえ全 8~10 回の講座を実施。子育て家庭をメインターゲットとしながら、特に男性の参加が見込めるようにする。		
②情報発信	・開催報告について、都度「colorful」に掲載		

【事業チームとしての行動計画】

・参加者確保のため、県内の子育て支援団体に協力を得ながら、対象者の参加が見込める機会をとらえて実施

⑨香川県 かがわ子育てステーションパワーアップ事業(ステーション)新規

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
3,122,000 円	-	-	-
今期の重点行動予定			
①研修会企画	・「かがわ子育てステーション」の登録団体の支援者同士のネットワーク構築を図るための交流会や、質の均質化を図るための研修を 5 回程度テーマを変えて企画。		
⑤研修会・交流会実施	・地域ごと(西讃・中讃・東讃・小豆)で、研修会と交流会を実施。		

【事業チームとしての行動計画】

・第 1 回目はキックオフの回とし、香川県知事にもお越しいただき全体に向けての研修を実施

自主事業

㊦子育て情報誌『おやこ DE わはは』 特別号

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
円	-	-	-
今期の重点行動予定			
①企業の要望に応じて、特別号としての発行	・前年度3月より制作を始め、5月に発行 テーマ 親子で取り組む口育のすすめ		

【事業チームとしての行動計画】

・5月特別号に関しては、営業エリアとなる、高松・三木・さぬき市での配布

㊧わははファミリーフェスティバル

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
円	-	4,829,260円	5,395,500円
今期の重点行動予定			
①11/17(日)イベント開催	・新スタッフ体制で70ブースの企業ブース出展を目指す ・昨年度に続き、応援ブースを設定、案内を進めるとともに、法人内、おもちゃ美術館等とも連携して、イベントを作ることができないか検討を進める		

【事業チームとしての行動計画】

・今年度より、設営業者の変更、資材の高騰等で支出の増加が見込まれるため、ブース料金を昨年度より1割UPでの実施。

㊨子育てハンドブック「たかまつらっこ」協働発行事業

事業予算	スタッフ数	去年度実績	今年度目標値
円	-	5,933,600円	5,401,400円
今期の重点行動予定			
①掲載広告の獲得	・誌面の20パーセント以内で、広告の募集を行う。		
②冊子の情報改訂	・関係各所に情報の変更がないかどうか確認の上、最新の情報に更新を図る。		

【事業チームとしての行動計画】

・令和6年度版 令和6年5月1日発行（広告営業スタート 令和6年1月～）
・広告代理店による入稿データの誤りがあり、正誤表を差し込む形での対応となった

讚岐おもちゃ美術館事業部

②令和6年度事業計画／讃岐おもちゃ美術館事業部

事業予算	スタッフ数	昨年度実績	今年度目標値
入館料収入 34,000,000	週 5 3	① 45,162 人	① 46,000 人
寄付金収入 6,000,000	週 4 2	② 36,297 人	② 37,000 人
外部コラボ収入 8,000,000	週 2 2	③ 61 団体	③ 65 団体

【今年度の目標】 ワクワクを用意する

全ての層に認知と共感を得られる事業へ/安定的な経営ができるための仕組みづくり

	今期の重点行動予定
① すべての子どもたちにワクワクの機会を提供する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケア児 無料貸切 在宅療養ネットワークとのコラボ 年1回 2. 社会貢献活動としての貸切開館 3. 県内保育施設からの団体利用促進 チラシ発送 年1回 ・利用アンケートの実施 4. 高松市との連携協定による、出生時赤ちゃん無料チケットの配布 5. 出張おもちゃ美術館パッケージの構築 価格設定、スタッフの体制・おもちゃの準備マニュアル対応 6. 瀬戸芸 2025 の来県者や、外国人来県者等にも、認知されるための広報、営業活動
② 子どもたちのワクワクを支える	<ol style="list-style-type: none"> 1. スタッフのおもちゃの知識、伝える技術の向上 2. 継続的に資金面での応援をいただき、アニュアルサポーター企業の仕組みを構築し、募集の開始 3. おもちゃ学芸員養成講座を年2回開催、新規登録学芸員 50 名目標 4. こうぼうでのワークショップの稼働により、毎回違った楽しみを創出 いとこのワークショップを定例で稼働 定番ワークショップのプログラムづくり
③ おもちゃ学芸員さんのワクワクを創り出す	<ol style="list-style-type: none"> 1. おもちゃ学芸員交流会 年1回開催 2. 新規登録学芸員 1年後の稼働率 50%目標 3. オリジナル WS や制作物の販売等で、発表できる場をつくる 年2回
④ スタッフもワクワクを感じながら	<ol style="list-style-type: none"> 1. 来館者 10 万人達成イベント開催 2. 年間を通してのイベント計画、研修計画等の事前の確定、休暇取得の際のルール決め、休日スタッフ増員、平日スタッフ役割分担等の仕組みを整えることで、安定してシフトが周り、心理的余裕をもって業務に向かえる環境を整える

【事業チームとしての行動計画】

- ①-3 団体利用についてのデータをまとめ、初回利用、複数回利用等の状況把握をする。その状況を踏まえた上で、来館後のお礼状を個別に作成。アンケートフォームへの回答依頼をし、ニーズや改善点を把握
- ②-1 スタッフ勉強会の機会を捉えて、スタッフの学びについて発表する機会を持つ
- ②-3 おもちゃ学芸員養成講座チラシの配布計画をつくり、年間を通して興味がある方からの応募を受け付ける。
- ③-1 6月～7月前半の来館者が落ち着いている時期に、実施計画を策定
- ③-2 養成講座終了後のシフト登録の状況を確認。初回、2回目と、シフトインの回数をスタッフで共有し、安心して活動でき、参加してよかったと思ってもらえる時間をスタッフの関わりから作り出す。